



山梨県 丹波山村

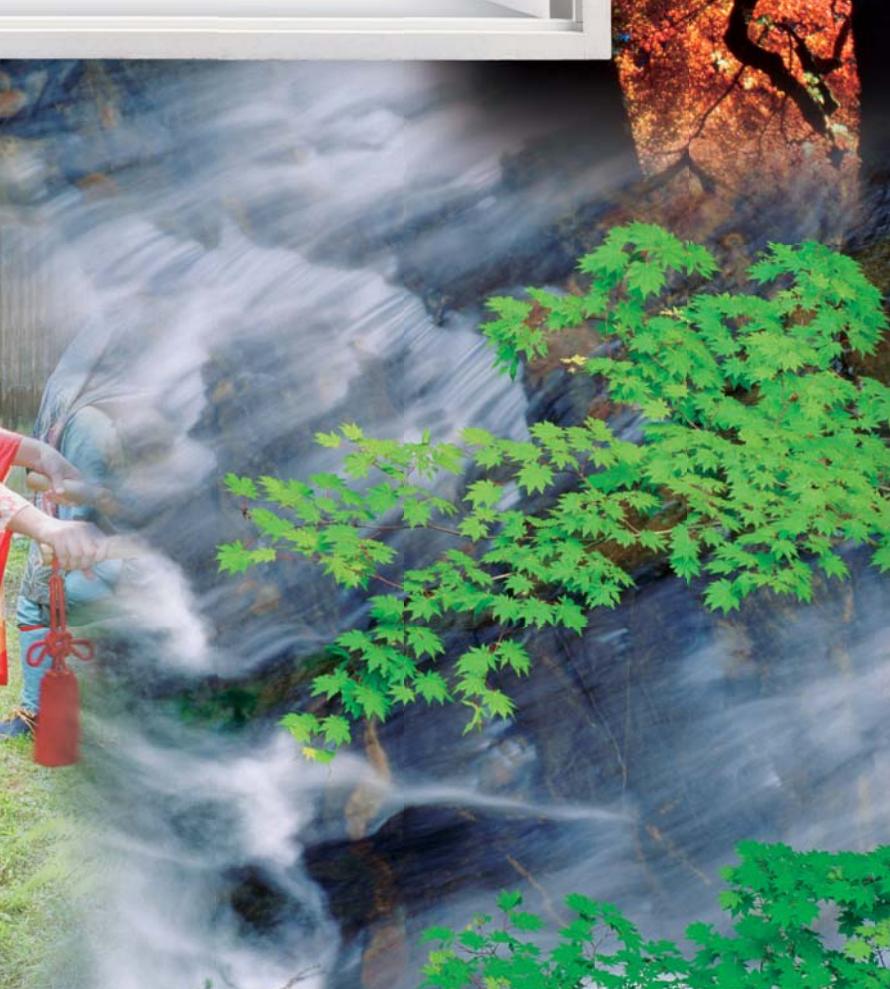
Tabayama Village, Yamanashi Prefecture

大きな自然の
ポケットです。

Beautiful Tabayama Village Life

山の山の手。
丹波山村。

丹波山村・2013年村勢要覧



丹波山村 ライフ

樂
しき

Beautiful Tabayama Village Life

contents

2 Photo Gallery フォトギャラリー

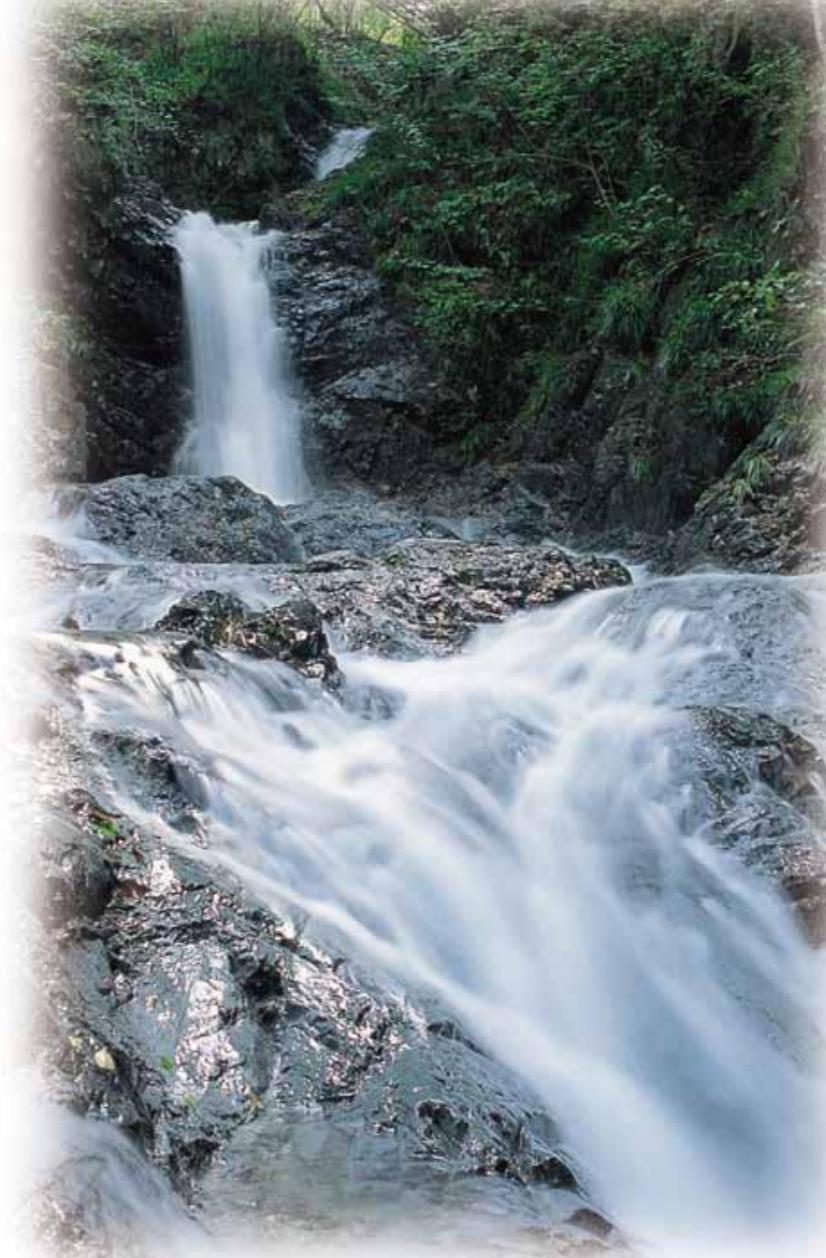
6 丹波山探検

- * 丹波山温泉「のめこい湯」
- * 道の駅・農林産物直売所
- * 村営つり場
- * そば処やまびこ庵
- * ローラーすべり台
- * 郷土民俗資料館
- * 交流センター
- * レクリエーション広場
- グラウンド・テニスコート
- スケートリンク
- * タバスキ

丹波山村・2013年村勢要覧



大きな自然のポケットです。
山の山の手。丹波山村。



- | | |
|------------------------------------|------------------------------------|
| 33 発刊に寄せて | 12 私と丹波山村 |
| 32 もっと丹波山をよくするぞー！
～議会・行政編～ | 24 地図で探検 |
| 31 自然の恵みを生かしながら
～地域産業編～ | 26 丹波山の歴史と祭りを垣間見る |
| 30 胸がワクワク心はウキウキいつまでも好奇心
～生涯学習編～ | 28 人にやさしい自然にやさしい暮らしの基本形
～生活環境編～ |
| 29 笑顔で元気ハツラツみんなの幸せを応援
～健康福祉編～ | 30 胸がワクワク心はウキウキいつまでも好奇心
～生涯学習編～ |



まだ、ところどころに残雪

が残る丹波渓谷に、丹波山村の人々が「イチバン」と呼ぶミツバツツジが咲き始める、

山の木々はいつせいに芽吹き始め、たちまち渓谷を緑で覆い尽します。やわらかな陽射しの中次々と花が咲き揃い、

透明な水は若葉の薄緑を映し出し、春の訪れと喜びを伝え、清新な水の流れは、はるか

な時代から人々の暮らしと文化・伝統を守り育んできました。

豊かな自然のなかに湧き出

る温泉は身も心もゆったりと解き放ち、自然に抱擁され

いるような心の安らぎを感じます。

SPRING

山々の草花が芽吹く春

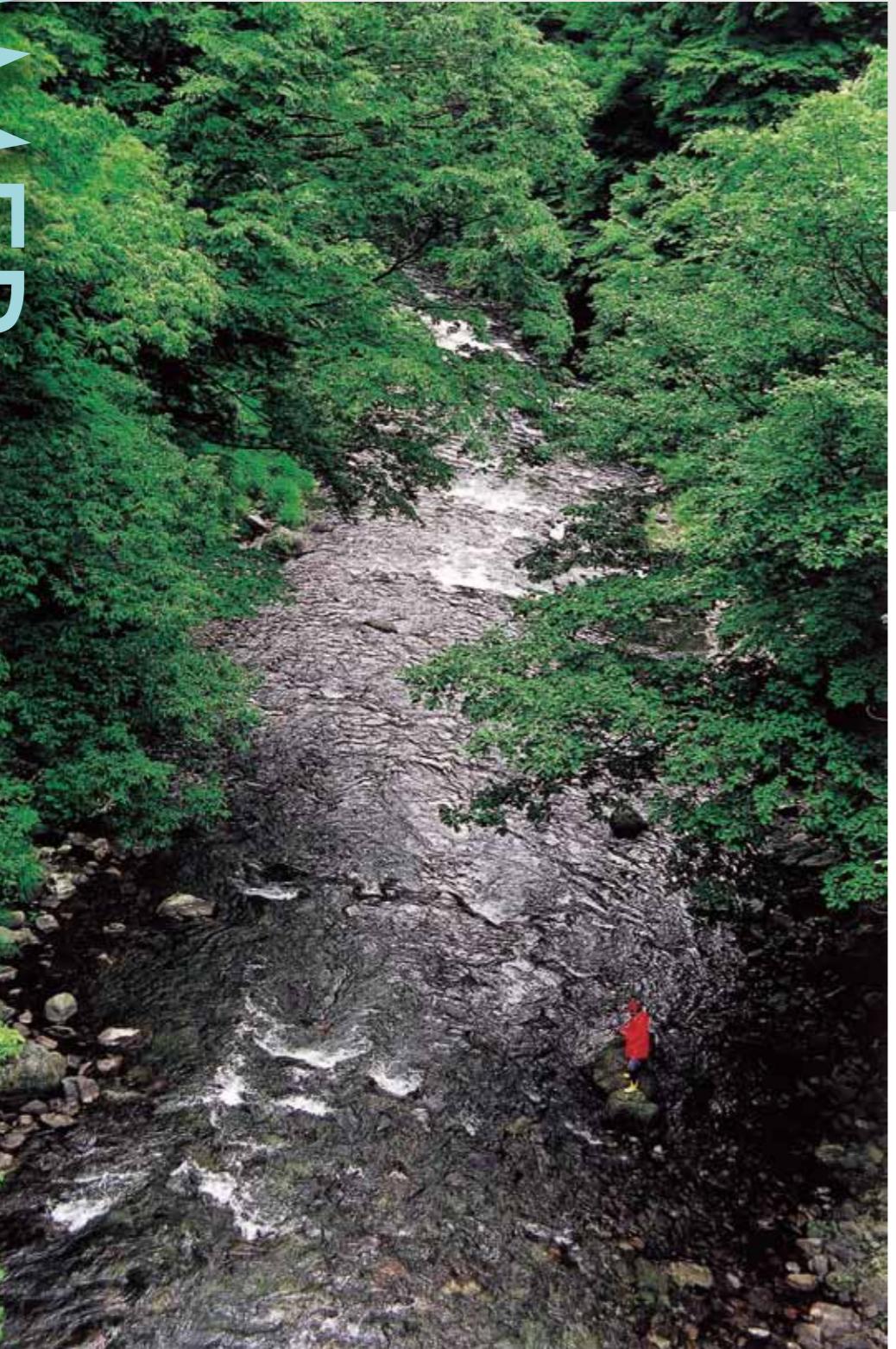


山峡の山桜

撮影: 清水源三
撮影場所: 所畠



緑の渓流に釣る
撮影: 松原 伝蔵
撮影場所: 保之瀬



丹波川を涼風が駆け抜ける夏

夏でも霧に包まれたブナの原生林のある、笠取山水干の一滴一滴を水源とする丹波川は、多摩川となりやがて東京湾へと注いでいます。

東京都の水源涵養林でもある水干には水干神社と呼ばれる小さな祠があり、人々の素朴な信仰と感謝を集めています。

清烈な水と空気は丹波山の豊かな植生を育み、鮎漁・山女魚釣りに絶好の淵もあちこちにあり、特産の山葵の葉も青々と眼を楽しませてくれます。

子供達の水遊びの声が響き、丹波山の夏は命の息吹があふれます。

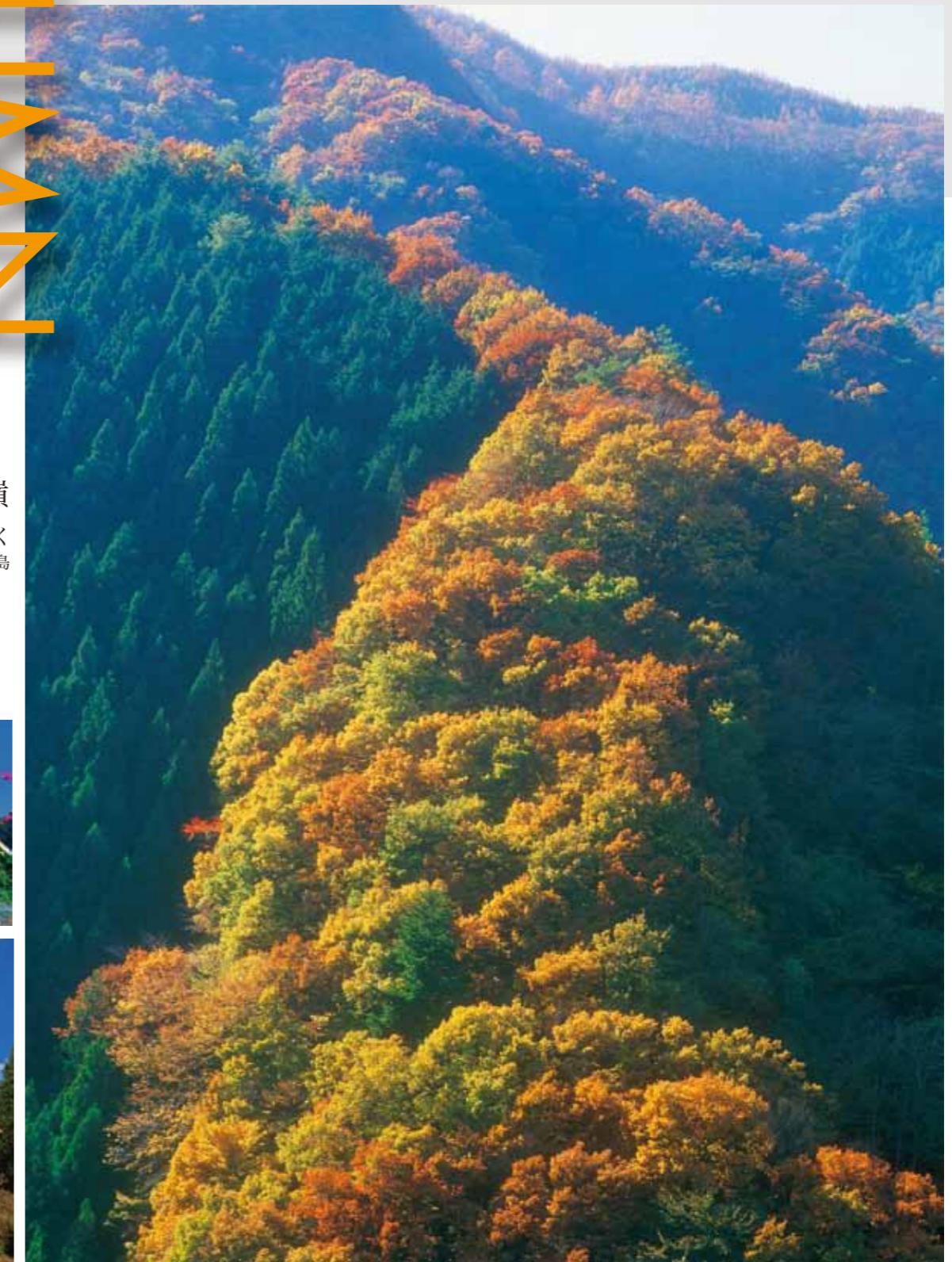


圧倒的な自然美が織りなす光景に虜になる秋、丹波山村は全村が紅葉スポットとなります。

誰もが美しさに見とれる「刀刃尾根」両岸を舐めるようには流れの「ナメトロ」、ブナやカエデ・ミズナラはとりわけ色鮮やかで、神秘的なまでに美しい紅葉に心を奪われます。柳沢峠付近と丹波山村は標高差が800mあるので、一月以上も紅葉が楽しめることです。沢筋の山葵も収穫の季節を迎える頃には「まいたけ祭り」や「秋の大収穫祭」が行なわれ丹波山の恵みに感謝しつつ、お腹も心もいっぱいに満たされます。

AUTUMN

色鮮やかに山燃える秋



秋嶺

撮影: 佐野いく
撮影場所: 天狗島



雪の渓流
撮影: 奥富 政
撮影場所: 親川



過酷な条件の中で生き抜いてきた先人の知恵や誇るべき文化は、伝統の祭りや行事を通じ親から子へ、子から孫へと受け継がれてゆきます。

山々が白銀の衣をその身に纏う時、丹波の神々はやがて来る春に備えしばしの休息に入ります。





道の駅・農林産物直売所

のめこい湯の駐車場横にある農林産物直売所。
丹波山のおいしい水と空気と大地、そしてあつたかい村人の手で育てられた、自慢の品々がそろっています。
朝どりの野菜やきのこ、旬の木の実。
味噌、豆腐といった手作りの加工品のほかに、
草木染めの毛糸なども人気があります。



買い物客でにぎわう店内



あきる野市からきました!

新鮮で安いと
とても評判です。
みなさんが自信作を
持ち寄っています。

自慢の品々がズラリ

新鮮な旬の野菜や林産物が、格安で手に入るということもあって、ここを目当てに立ち寄る方も多い人気の直売所です。朝10時オープンですが、すでにお客さんが待っていることも…。

「朝いちばんでここに寄るの。」そんな賢いリピーターもいらっしゃいました。並んでいる商品には、値段とともに生産者の名前が書かれています。つくり手の顔が浮かんできて安心感と親近感が持てると、それも人気の理由ようです。



農林産物直売所全景

丹波山温泉「のめこい湯」

川のほとりに立ちのぼる湯気…。青梅街道沿いにある丹波山温泉「のめこい湯」です。駐車場に車を停めると、吊り橋の向こうに温泉が見えます。緑の山々、そして深い渓谷、そんな風情のある環境の中にある、のめこい湯。歩くたびにユラリとゆれるふれあい橋をわたっていざ温泉へ…。

檜の香りが気持ちいい和風風呂



駐車場から橋を渡って温泉へ



やっぱり露天風呂

週末はたくさんの
お客様です。
のめこいお湯を
ぜひお試しください。



明るくて広々としたフロントロビー



つるつる、すべすべ。

「のめこい」は丹波山村の方言で、「つるつる、すべすべ」という意味です。名前のとおり、湯上がり後は肌がつるつるになります。ほのかに硫黄の臭いがするお湯で、神経痛や筋肉痛、冷え性や疲労回復にも効能があります。

檜造りの和風風呂と石造りのローマ風呂は、日替わりで男湯と女湯が入れ替わります。露天風呂も人気です。



やまびこ庵

知る人ぞ知る人気スポットがここ、やまびこ庵。
手打ちそばが美味しいと評判のお店です。毎朝、その日に
そばを打っています。「のめっこい」のどごしが自慢。
丹波山の清流で育ったワサビも人気の理由。
本格的に鮫皮でおろしていただきます。

みんなで丹精込めて
つくっています!
おいしいから
食べに来てね。



もちろんそばは手打ち



手慣れた手さばき



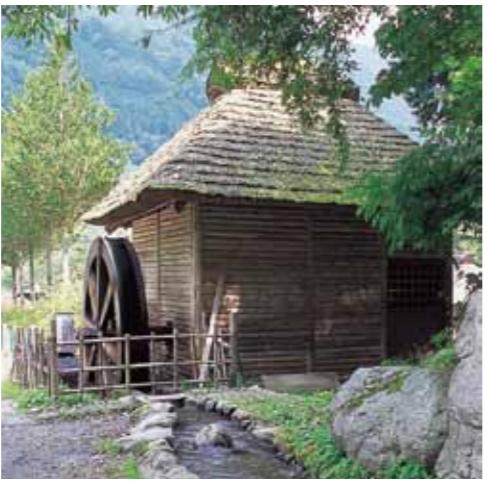
薬味はもちろん丹波山産のワサビ



ど～ぞ召しあがれ



やまびこ庵



水車小屋がシンボル



外で食べるのも格別

美味しくて評判!

リピーターも多い人気のそば処、やまびこ庵。村営つり場のすぐ側にあり、行楽客をはじめ、東京からやって来る常連さんも少なくありません。お店を切り盛りしている田中さんにお話をうかがいました。

「だいたい平日は80食、土日ですと250食分のそばを打ちますよ。ゴールデンウィークや夏場だと5~600食は出ますね。うちは地粉（丹波山村産のそば粉）を使ってますから、風味があって美味しいんです。ワサビもネギも地場産で、毎朝、農家からとれたてが届きます。」

20人座れるか座れないかほどの小さなお店に、お客様が次から次へとやって来ます。人気の味をぜひおためしください。

家族みんなで
外で食べるのって
楽しいね。
おなか一杯です。

村営つり場

渓流の里丹波山に来たなら、やっぱり釣りを楽しみたいもの…。
清流のせせらぎの中で過ごすひとときは、格別の楽しみ。
釣りを体験したことがない人や、道具をもっていない人でも、
村営つり場では気軽に挑戦することができます。
小さなお子さんも一緒に楽しめます!



管理事務所前には釣り堀も…



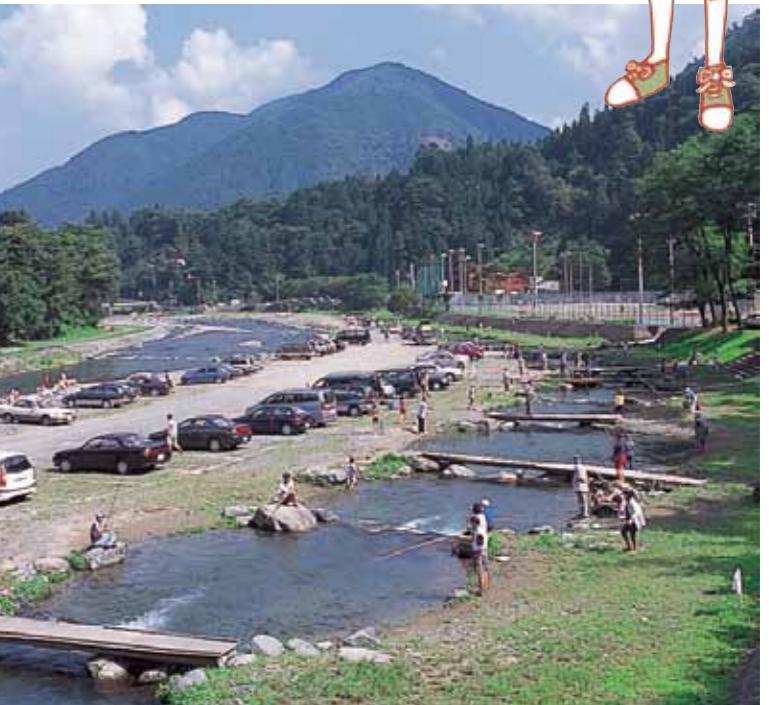
魚がいっぱい



釣った魚を川辺でバーベキュー



浅瀬で釣り体験



週末は人でいっぱい

釣りを楽しもう

緑の自然の中で川のせせらぎを聞きながら楽しむ釣りは、レジャーの王道。世代を問わず人気があります。

丹波川の河川敷を利用してつくられた村営つり場では、初体験の方でも気軽に釣りに挑戦してもらうことができます。

つり場にはニジマスが放流されていて、初心者の方や小さなお子さんも楽しめるようになっています。道具も全て借りることができるので、家族そろってチャレンジしてみてはいかがでしょうか？

釣った魚を串に刺して炭火で焼いてもらふこともできます（有料）。川辺で自分たちでバーベキューするなど、楽しさは無限大に広がります。浅瀬では魚のつかみ取りもでき、人気があります。



やったあ!
釣れたよ!
すごいでしょ~!





タバスキー

大きな自然のポケットです。山の手。丹波山村。
 ●名前はタバスキー(丹波好き～)、UFOのアダムスキー型との語呂合わせから命名された!
 ●丹波山の「丹」の字をモチーフとして图形化された!
 ●平成9年10月 キャッチフレーズとロゴマークとともに誕生した!



タバスキーの活動

こうして、丹波山村の公式キャラクターとして採用された「タバスキー」は、キャッチフレーズの「大きな自然のポケットです。山の手。丹波山村。」のコピーとともに村のイメージアップを図るための活動を開始しました。

ホームページに登場したのを初めに、公用車や職員の名刺、広報誌や観光パンフレットなどの印刷物や、Tシャツ、パンダ大、エコバックなどのオリジナルグッズも作成していました。

平面だったタバスキーも立体化した姿でお披露目され、携帯ストラップやぬいぐるみなどたくさんの中身がラインナップしました。また、「ゆるキャラブーム」も手伝って「着ぐるみ」も登場しました。

タバスキーは県内ではゆるキャラの先駆者として、村内の保育所や学校行事だけでなく村外のイベントにも引っ張りだこの毎日となりました。のめこい湯のロビーではお客様のお出迎えをするなど、もう丹波山村のタバスキーを知らない人はいなくなりました。最近ではブログやツイッターを通じて、全国、全世界に向けて丹波山の情報を発信しています。

タバスキーの具現化に関する考察

東京都民の母なる川・多摩川水源の村である丹波山村の人々にとって一番の財産は「豊かな自然」とそれを育む「水」です。その素晴しさをより多くの人たちに知って欲しい、触れてもらいたい、先祖代々受け継がれた「水守の精神」を伝えるための方法を模索する中で改めて気づかされたことがあります。

村人の心の奥底にあったのは「やっぱり丹波山が好き!」という純粋な気持ちでした。その思いが結晶となって「タバスキー」は生まれました。平成9年10月のことでした。

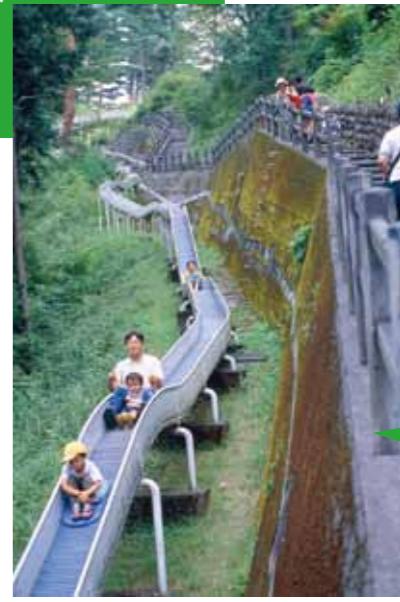


タバスキーの未来に関する考察

一方、全国的な「ゆるキャラ」の現状では、タバスキーの存在はまだまだ知られていません。そのためにも、丹波山村に来てくれたお客様一人ひとりを心からおもてなしすること、また丹波山村に来たいと思つてもらえることがタバスキーの願いです。いつか世界中の人が「丹波山が大好き!」になってもらえるよう、タバスキーは進化し発展を続けていくのです。

ローラーすべり台

緑の木々に囲まれた山城がローラーすべり台の出発ポイント。全長247mという巨大なすべり台に、子どもたちはもちろん、大人もついにはしゃいでしまいます。眼下に広がる丹波山の自然に、心も広々…。さわやかな風を体全体で体験してください。



わ~い! 楽しいよ~。
長い長い
すべり台だよ。

郷土民俗資料館

木のぬくもりが懐かしい館内には、郷土の歴史を語る貴重な資料の展示や、生活の様子を伝える「生活模型コーナー」、年中行事や生息する動物を紹介するコーナーなどがあり、素顔の丹波山にふれることができます。

「お松引き」と「ささら獅子舞」

丹波山村に伝わる二つの祭り「お松引き」と「ささら獅子舞」の紹介が中心の展示です。

「お松引き」は「修羅」に、正月飾りや、その年の干支を積み上げ道祖神まで引いてゆく祭りです。「修羅」は古墳時代からの運搬具ですが、現代も使われているのは丹波山村だけです。「ささら獅子舞」は五穀豊穣を祈願して奉納される奥多摩地方独特の獅子舞で、県の無形文化財に指定されています。

交流センター

丹波山村には、自然に触れ、癒されたいと願う都会からの人達が多く訪れます。その人達にもっと丹波山のことを知りたいという想いから交流センターが造されました。

体験型宿泊施設

お客様に農業や、そば作り、竹細工などを体験してもらいながら宿泊できる「体験型宿泊施設」です。完全自炊制になっていて食事は付いていませんが、厨房設備や、食器類は全て揃っています。道の駅の農産物直売所で食糧を仕入れたり、近くの釣堀で魚を釣ったり、材料の調達からワクワクできます。

Lクレーション広場

グラウンド・テニスコート

多目的グラウンド2面と、全天候型テニスコート3面があり、ともにナイター設備を完備しています。夏休みなどの混雑時は村内宿泊者に優先して貸し出しています。

予約等は、丹波山村振興課まで問い合わせてください。

スケートリンク

混じりけのない純天然水を使用した、冷却装置を全く使わない本物の天然野外スケートリンクです。綺麗な水で作った、綺麗な氷、大自然そのままのリンクです。(貸し靴はありません)

山里の文化、森林文化の発揮

富士・東部林務環境事務所長 岡部 恒彦



丹波山村というと村の97%が森林で、しかも7割が都有林ということから水源の森の村、そして新大丹波峠を下りながら望む丹波川沿いの集落を見ても、谷間に静かに佇む村というイメージでいたのですが、平成13年に林業構造改善担当となつて「のめこいの湯」の対岸に完成した農林産物直売所にかかわってから見方が少し変わり、更に昨年15年振りに今の事務所に赴任してみると、管内でもとっても元気な村であり、住民の皆様はもちろん、森や畑なども含めて地域が燃えている、本当にエネルギーな村であることを感じております。

森林については、水源林として7割の都有林の管理はもちろん東京都が行つてきた訳ですが、地元の方々も都民の水源であることを十分認識して、残りの自らの森林(様々な歴史があるようですが)についても他の流域で見られるような大面積の皆伐は行わず今日に至っていること。このように守られてきた森林でも、材価低迷による手入れ不足から荒廃が進んでしまいましたが、平成18年から社会貢献を目指す企業と地元とが協働によりこの荒廃した森林の森づくりを始め、昨年2期目を迎えました。この活動により都会の若い人と村民の皆さんとの交流も今では本格的なものになり、上流と下流とが企業の森により「絆」を深め、活動が内へ外へと活発に、また中身のあるものへと広がつたとお聞きし、これが元気の源のひとつなんだと改めて感じております。

さらに、県に先んじて県有林FSC(国際認証)材を使った丹波山ブランドの机とイスの開発・導入と普及を始め、新たに取り組み始めた幹線道路沿いの森林整備、さらには村有林のFSC認証取得への動きなどは県内でも先駆的な活動であります充実されますよう期待しています。また、現在、天空の台地とも思えるような「丹波天平」「保之瀬天平」に向け林道の

整備計画が進んでいます。開発から守られた、高い尾根にある広い不思議な平ですが、ここに広がる森も含め、森の恵と自然のやさしさを感じられる場所として活かして頂ければとも思います。

私の尊敬するK先生が、かつてその提唱する植物民俗学で「馴れ親しんだ風物を醸し出すものは自然の植物で、標準和名は知らなくてもそれぞれに呼び名(方言)があり、生活に溶け込んでいる。」と言われましたが、伝統のお松引きや祇園祭とともに、タラッポイ(タラ)やママツコ(ハナイカダ)などの野生植物や落合いもなどの伝統野菜をはじめ、生活に溶け込んだたくさんの植物やそのほかの伝統的なものを通して地域を見直し、進みつつある新たな文化を更に広げて頂けたらと思います。今 の山梨は「水」や「道」に賭けた時代から「森」に賭ける時代を迎えたといわれております。森を通して、都会にはない丹波山の魅力・山村文化・森林文化を益々発揮し、広く世界に発信していただければと思います。

昭和59年に初めて大月林務に勤務した時は、遠い遠い丹波山でしたが、今では、都留から一番遠いにも係わらず、なぜだか身近に感じる丹波山です。益々のご発展をお祈りすると共に、事務所職員も含め、可能な限り応援をさせて頂きたいと改めて思うこの頃です。



東急ホテルズと丹波山村

(株)東急ホテルズ 馬場 幸子

2006年に国内での植林活動場所を、当時、財団法人(現在 公益財団法人)オイスカの担当者さんに選定をお願いし、「東急さんにご提案する場所は、丹波山村という所があります」と聞いた時に、「えつ? 何県?」と思つてしまつたのが正直な感想でした。

初めて丹波山村に伺った時、大月駅からの山越えで、途中サルの群れにも遭遇し、丹波山村の集落は静かな里山だなあとというイメージでした。

植林場所(高尾天平)まで、登つてみると、売店(現在 道の駅)や、のめこい湯が見えて素晴らしい開放感とすがすがしい気持ちになりました。その時、岡部村長が「この山を山桜の木で一杯にして、温泉に来たお客様が山を見上げた時に、桜が綺麗だね!」と言つてくれる風景にしたいです!」とおつしやつた言葉が印象的で、私も満開の桜の山を見てみたいと強く思いました。

私達の活動は、春の植林・秋の草刈と年2回丹波山を訪れます。春は桜を植えるという記念植樹の気持ちで参加する方が多く、最初の活動では、勝手がわからないボランティアということもあり、参加者がなかなか集まらず、関東地区のホテルにお願いして人数を何とか確保し、第1回目を行つ事が出来ました。幸いにも家族で参加してくれた方が多く、両親が土を掘り、子供達が桜を植えていくという、親子で力をあわせている姿が微笑ましく、植林現場までの往復も自然を満喫しているようでした。無事に第1回目が終了し、参加者から「子供が『お山の桜にお水をやりに行かなくていいの?』『今度はいつ行くの?』と毎日のように、私に質問してくるのが嬉しそうで、非常に良い経験をさせてもらいました。また参加させて下さい」という言葉や、「次回は私も行つてみたい」という言葉が私の励みとなっています。

秋の草刈は「大変そう…」と敬遠されるかな?と思いましたが、「自分で植えた桜が、どうなつているのか見てみたい」と、リピーターが多いのもこの活動の特徴です。日常では使用することのない大鎌を使っての下草刈は、斜面での作業ということもあり大変ですが、皆さん黙々と作業をしています。子供達も両親の監視のもと、草刈を少しお手伝いした後は、北都留森林組合さんの計らいで、ブランコや、ターザンの遊具で遊んだり、きのこを採取したり満喫させてもらっています。

活動回数を重ねていく毎に、活動内容がマンネリ化とならないよう、また、丹波山村の皆さんとの交流を通して丹波山の良さを知つてもらいたい思いで、そば打ち体験・じゃがいもの植え付け・野菜の収穫を今まで行つてきました。

そば打ちは、私が丹波山を訪れた時に、いただいたおそばが非常に美味しくて、参加して下つた方々に、是非食べてもらいたいという思いで相談したところ、それなら実際に打つてもらおうということになり実現しました。村の方々にご指導いただきながら、そばを足で踏み、薄く延ばして切る作業は、大人も子供達も真剣な表情で、とても良い交流が出来たと思います。

じゃがいもの植え付けも、子供達が楽しめるよう取り入れた活動ですが、丹波山の在来種「つやいも」「落合いも」等が守られていることを、参加者に知つてもらいたい思いで、昨年の秋の活動時に、じゃがいも保存会の方から丹波山在来種の説明をしていただき、収穫のお手伝いをさせていただきました。また、野菜の収穫は、クラインガルテンの敷地内に、オイスカの方々のご協力で、子供達の為に、無農薬栽培をして下さった野菜を収穫させていただき、土や野菜に触れる良い体験となっています。

「東急ホテルズ・グリーンコインの森」の活動は、2012年の春の活動で、8回目となりました。もう桜が咲いても良い時期?と思いつがちですが、自然は甘くないのが現状です。昨年より、野生の鹿が丹波山村に多く現れ、私達が植えた桜も鹿対策用のウッドガードを角で突き破り、新芽を食べてしまふ被害が大量に発生してしまいました。現場を見た私は愕然としましたが、村長さんの「この山を桜の花で一杯にしたい」の言葉を思い出し、活動の前に、参加者の方に今の山の現状をお話し、皆で桜の木を守ろうと気持ちを一つにして、新たに通気性がよく頑丈なガードを付け直す作業を行いました。実際に作業時に、桜の木の周りに鹿の糞が見られ、「本当に鹿が来て、桜の新芽を食べているんだ」と実感し、これからも根気強く桜を見守つて行きたいと思いました。

今後も、丹波山村の皆様のお力を借りて、活動を続けて行こうと思ひました。行く度に新たな発見がある素敵な村です。丹波山村に入ると街頭の先端を指差して「タバスキーだ!」と子供達が声を上げるほど認知され、これからもっと丹波山が好き(タバスキー)が増えるように私も頑張ります。



村勢要覧発刊によせて

富士・東部農務事務所長 横田 達夫

清々しい緑が萌え、川面に映る春。川遊びする子供たちの歓声が響く夏。熟れた柿を一家総出で収穫する秋。雪に埋もれるもお松ひきのかけ声がこだまする冬。そんな四季の暮らしがある丹波山村が大好きです。

私は県の農政職員になつて30数年が経ちますが、丹波山村とはただならぬ関わりを持つています。平成9年から村が予定していた中山間地域総合整備事業の計画に対する農水省の現地調査があつた時に、ヨシズの小屋で満天の星を眺めながら湧出したばかりのめこい湯につかつた記憶があります。平成21年には鳥獣害対策により捕獲した鹿の肉を特産品として開発できるよう加工施設が完成し、また、22年には都会の人が村の農業に関心をもち、担い手として活躍できるようクリニックが開設されました。この2つの施設についても県の農政部において、事業計画や予算の確保に關係したことを覚えていました。

現在、農務事務所では村内に県営農地環境整備事業を導入し、農業用水路や排水路の整備、農道の整備や鳥獣害防止施設の設置などをい、地域の農業生産の向上や住みよい村を目指した事業を促進しています。また、集落内の耕作放棄地を未然に防ぐことや農道・用排水路の維持を行う活動に対して補助するなどの支援を行っています。

さて、全国各地では一律の開発が進み、どこでも同じような建物が並ぶなど、独自の個性がなくなり地域の良さが失われてきています。一方県内外の市町村では「○○おこし」「△△運動」「××隊」といった地域の自然や文化などの様々な資源を活用する活動がさかんに行われています。

丹波山村には、山や川を始めとした豊かな自然や歴史ある文化があります。加えて丹波キュー



ウリ、丹波モロコシや落合いもなどのジャガイモ類などの古くから伝わる在来作物があります。貴重な種であり永く保存する必要があり、村内の栽培農家や研究機関などが「在来種ジャガイモ等保存会」を立ち上げ、村内にある農業技術や食文化を再評価して世代間の交流や都市と農村間の交流につなげることを目的に活動しています。

身近にある地域資源を大事に育て、村の独自色を高めていくこのような活動は、将来の丹波山村ブランドを誇りの醸成につながると思います。

道の駅でコロッケを買い、頬張りながら吊り橋を渡りのめこい湯に入つて、シカ料理を食べ、緑の山や川の水に癒される都会的人がどんどん増えることを期待します。

これからも、丹波山村が取り組む農業や地域活動がさらに活発になるよう事務所職員一同と一緒に手伝いさせていただきたいと思っています。

フレーフレー丹波山!!!



村勢要覧発刊によせて

公益財団法人オイスカ 専務理事 永石 安明



オイスカは発足当初から「農業開発と人づくり」を目的として、アジア太平洋地域を中心活動を展開してまいりました。1980年代からは、これらの発展途上国における環境保全の一環として植林活動を展開し、アジア太平洋地域27カ国において、山の植林、海岸でのマングローブ植林を実施しています。しかし、ふりかえって日本の森林の現状を見たとき、国内の森林が非常に荒れていることに気づき、日本国内の森林保全も重要な課題であることを再認識するに至りました。

そして、私たちオイスカが丹波山村で企業との協働による森づくり活動を開始したのは、2006年のことです。首都圏で食品スーパーを開拓するサミット(株)を丹波山村にご案内したことをきっかけに、当時まだ「企業の森」としては事例の少ない、間伐、枝打ちなどの森林整備を中心とする森づくり活動がスタートしました。その後、2007年には「東急ホテルズ・グリーンコインの森」として、(株)東急ホテルズとの植林活動も始まりました。

サミット(株)の担当者とオイスカが植林活動地を探して、丹波山村を訪れたとき、村からは「村に木はたくさんある。植えることよりも、間伐などの森林整備が必要なのです」との説明を受けました。オイスカが国内外で活動をスタートするときに、重要視していることの一つは、「現場のニーズがあること」。現地に本当に必要とされていることでなければ、成果は生まれないし、活動も続きません。従つて、せっかく企業からご支援を受けても、良い結果をもたらすことが難しくなってしまいます。村の方たちの生の声を受け、現場に一番求められていることをしようと、活動が決まりました。

それから6年がたち、「サミットの森」は見違えるように整備され、きれいな森に生まれ変わります。

両社とオイスカの想いは一つ、「多摩川の源流域、東京都の水源地域である丹波山村の森が豊で健全であつてほしい。そしてその森を守る村は、元気であつてほしい」ということです。植林や森林整備に村を訪れる都会の人達は、丹波山村で森づくりすることの意義を理解し、さらに村の自然や人々とふれあうこと樂しみに参加しています。都会から見た丹波山村は、豊な水や空気を育む森を有し、その恩恵を都会にもたらしてくれる大切な村なのです。

ぜひ、村の人達自身が、丹波山村の貴重な財産である「森」と、その魅力を信じ、より多くの人達にPRしていくてほしいと思います。そしてオイスカは、これからも都会と丹波山村を、「森づくり」を通じてつなぎながら、村の方たち、企業のボランティアと一緒に活動していくことで、村がより元気になるお手伝いをしていきました。



村勢要覧発刊によせて

木netやまなし推進協議会 事務局長 田中美津江

丹波山村の面積の実に97%は山林だといいます。東京都の水源林としてきちんと整備されている森林もありますが、特に民有林は手入れがなされず荒れてしまっている森も少なくありません。多摩川の源流、丹波川の豊かな水を育む丹波山村の森は、村だけでなく東京都にとつても大切な財産であり、今後、守るべき貴重な資源であると思っています。そして、全国的にも日本の大きな資源として森や木材が見直されている今、丹波山村の森林を活かし、森とともに生きる道を見出し活性化していくことは、日本全体としてもモデルとなり得る事例になつていくと感じています。

村では、森林整備の必要性を認識し、(公財)オイスカを通じて2006年からサミット(株)や(株)東急ホテルズとともに森林保全活動や材の活用に取り組んでいます。木netやまなし推進協議会も、2011年から「サミットの森」の森林整備活動において、施業やボランティアの指導という形で携わっていますが、活動は、森林という村の資源と、豊かな自然や人という、村の魅力を活かした都市農村交流の形であり、両社の社員やその家族など、大勢の人が村に訪れるきっかけとなっています。都市に住む人々が村に魅力を感じ、訪れてくれることは、観光産業を盛り上げるなど地域の活性化にもつながる重要な要素です。ただ、村をさらに元気にしていくためには、豊な森林資源をさらに活かし、生業としての林業が復活することは大きなカギを握るのはないと考えています。それも、木を育て、木材にして売るということだけではなく、木材を加工し、デザインされた家具にするなど、付加価値をつけた「丹波山村ブランド」の商品として市場に出すことが、木が生き、木を加



工したり、デザインしたり、売っていく、それぞれの人気が活き、村も活性化させるのではないでしょか。いわば村の中に「木の総合商社」があるようなイメージで林業を開拓していくことが、村の人口増加や経済の活性化につながつていくと感じています。

またさらに、林業を開拓していくときには「FSC森林認証」のような国際的な基準の認証を得ていくことで、村の材、製品はさらに価値を高めることができます。「FSC森林認証」は、森林が環境保全の視点から見て適切に管理され、また社会的な利益にかなった、経済的にも持続可能な森林管理をすることを目的とした認証制度です。丹波山村全体の森林がFSC認証を取得することができる、村の林業の「質」を証明するツールとなるのです。FSCという、適切な森林管理を行いう上での具体的な基準を持つて、村の森林を活かしていくことで村の林業の好循環を生み、生業としての林業の復活、さらには村の活性化にも貢献できるのではないかと考えています。

木netやまなし推進協議会には、森林組合などの林業者、木材加工や製品作りを行う木工業者、デザイナーなど、「木」を扱うさまざまな業態が集まっています。まずは、村の方に森林資源の価値を改めて知つていただくこと、村に残る林業の技術や職人さんをつなげていくことを目指し、今後、丹波山村が林業での活性化の道を見出していく際には、それぞれのノウハウやスキルを存分に發揮し、応援するとともに、その夢を、一緒に追いかけていきたいと考えています。

村勢要覧発刊によせて

サミット株 加藤 豊

■サミット株式会社について

「サミット」株式会社は、食品スーパー・マーケットのサミットストアを東京、神奈川、埼玉、千葉、1都3県に105店舗(2012年4月現在)展開する地域密着型の企業です。これまでに店舗から排出される廃油や発泡スチロールのリサイクル、ペットボトルの店頭回収等、様々な環境活動を開催してきました。

そして、環境問題への社会の意識が高まる中で、2005年には全店舗で国際的な環境認証規格ISO14001を取得して環境への取り組みを強化、これをきっかけに、環境面での社会貢献活動を開始することになりました。

■生活に欠かせない“水”を育む「サミットの森」づくり

「サミットの森」づくりは、首都圏の水源地を保全し、生活に欠かせない安全な“水”を育み安定的に供給することを目的として、丹波山村のうすも村有林11ヘクタールを舞台に公益財団法人オイスカと協働で2006年よりスタートしました。活動の原資には店頭回収した紙パック、アルミ缶の売却代金と当社からの寄付金を活用しています。

活動開始前、当社の担当者は植林活動を行うことを想定していました。しかし、丹波山村の岡部村長や北都留森林組合から「木はたくさんあります。水源林の保全のためには現存する森林を継続的に整備することが必要です。」という話を伺い、間伐、枝打ち、そして間伐材の利用を促進するために搬出用作業道を設置することも含めた森林整備活動に協力することを決定しました。

また、当社社員の環境保全意識を高め、森林を管理することの大切さを学ぶた

めに、社員ボランティアだけではなく、新入社員研修の一環として間伐、枝打ち等の体験活動を実施しており、2006年の活動開始から計22回、約1000名の社員が丹波山村での森づくり体験活動に参加しています。



第2期(2011~15年実施)の「サミットの森(たわの向村有林)」で実施した社員ボランティア活動(写真右端が筆者)

■森づくり体験活動を通した相互交流の実現

「サミットの森」づくりを開始した当初、村民の皆さん方が直接参加することはありませんでしたが、新入社員研修や社員ボランティア活動で定期的に当社社員がお世話になる中で、少しずつ参画していただけるようになりました。村民の皆さん方がボランティアとして地元の食材を使つた昼食を用意してくださり、間伐・枝打ち指導の協力をしていただく等、現在では一体となつて活動できるようになつたと感じています。参加した社員からは「素朴でおいしい料理に感激した。」「村の方々と交流できて良かった。」との感想が出ています。そして、今年夏には当社のお客様を丹波山村にご案内し、「サミットの森」の見学や農業体験をしていただく述べています。

また、毎年12月に当社が主催する「大宮八幡宮杉並花笠祭り」には2008年より丹波山村に参加していただき、村のジャガイモを使ったコロッケや生わさび等、特産品の販売とPRをしていただき、多くの来場者から好評を得ています。このように、「サミットの森」から生まれたつながりは、上流域と下流域の人々、情報をつなぎ、相互交流の実現につながっています。そして、これまでの活動を通して、森林整備だけではなく、地域全体が活性化しなければ森林は守れないということを気づかされました。

■循環型の森づくりを目指して

活動開始以降、「サミットの森」づくりと並行し、当社のお客様が生活する地域に密着した活動として、子ども達に森林からの恵みを届けるため間伐材を使用したつみ木を児童館等の施設に寄贈してきました。

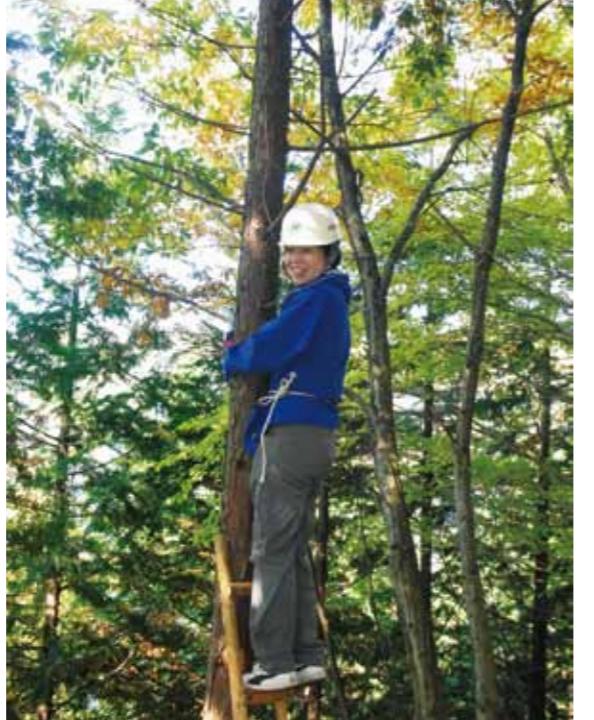
しかし、今後は、地域が活性化しなければ森林は守れないという視点をふまえ、丹波山村の間伐材利用を促進できる活動を模索しています。その先駆けとして、本年4月に木ネットやまなし推進協議会の協力を得て、東京都杉並区の当社本部ビルに丹波山村の間伐材を使用して「サミットの森」をイメージした空間を作りました。今後は、間伐材製品を店舗で活用したり、首都圏の自治体を通して次世代を担う子ども達の環境教育に活用してもらうなど、森林整備と間伐材利用が一体となつた循環型の森づくり活動を進めていきたいと考えています。



本部ビルに設置した丹波山産の間伐材製品



うすも村有林に設置された間伐材搬出用の作業道



はしご登り枝打ち作業を行う
社員ボランティア

受け継がれるもの

いつまでも守り伝えていきたいふるさとの祭り。

親から子へ、子から孫へ…。

そうやって人から人へと守り継がれてきた伝統行事には、時代の中で変わることのない、ふるさとの思いが込められています。



(右から)お松引き／正月飾り／門ん道神(カドンドウシン)／昔の青梅街道



お松焼き(どんど焼き)
1月14日に行われます。神棚の小松と7日に引いたお松引きの松を燃やします。



祇園祭／ささら獅子
熊野神社の大祭で7月15・16日に近い土・日曜日行われます。獅子3頭と、これを取り巻く花笠のささらが1組となって、お囃子の音に乗って村内の各神社をまわります。



丹波山村には、人から人へ代々受け継がれてきた伝統行事があります。

代表的なものに、正月に行われる「お松引き」があります。1月7日にY字型の木でつくった修羅と呼ばれる木ぞりの上に松の枝を積み上げて、正面に干支を飾り付け、村民総出で道祖神まで引いていくという、全国でもめずらしい丹波山村ならではの行事です。

また小正月には、カツノキの幹でつくられた門ん道神(カドンドウシン)が、玄関などに魔除けのために飾られます。そのほかにも7月に行われる祇園祭など、古式ゆかしい行事が受け継がれています。



おいらん堂
武田家全盛期には黒川金山で金の採取が盛んだつた丹波山村。このおいらん堂は、武田家滅亡の際、金山の秘密を守るために「おいらん淵」に落とされた、55人の遊女を吊るために建てられたと伝えられています。

人にやさしい 自然にやさしい 暮らしの基本形



Happy Tabayama Life

環境編 生活

快適に、そして安心して暮らせるように…。丹波山村では、暮らしの基本形となる生活環境の整備に取り組んでいます。東京都の水源地であることから、下水処理には特に力を入れています。生活道路の整備や、いざというときのために消防や防災訓練を行って、万が一の災害に備えています。豊かな自然を守りながら、さらに暮らしやすい村づくりをめざしています。

昔はくねくねとしていた峠道もトンネルの開通ですいぶん便利になりました。

ここに集められた下水は、新たに飲料水となるべく浄化されて川に戻されます。

一人ひとりの日頃からの心構えが大事!村民も参加しての防災訓練を実施しています。

環境にやさしいリサイクル型の社会をめざして、資源ごみを分別して集めています。

いざというときに備えて…。防災無線は村民の命を守るために欠かせない設備です。

笑顔ニコニコ元気ハツラツみんなの幸せを応援

Happy Tabayama Life
健康
福祉編

丹波山村では村のみんなが元気に、そして笑顔いっぱいに暮らせるように健康福祉の充実に努めています。

丹波山村では村のみんなが元気に、そして笑顔いっぱいに暮らせるように高齢者生活福祉センターではお年寄りのデイサービスを行っています。また、ふだんの生活の中から健康づくりに取り組んでもらうために健康教室を開いたり健康診断を行っています。元気な子どもの育成も応援しています。

健康は財産、そして笑顔は宝物。丹波山村では村のみんなが元気に、そして笑顔いっぱいに暮らせるように健康福祉の充実に努めています。

高齢者生活福祉センターではお年寄りのデイサービスを行っています。また、ふだんの生活の中から健康づくりに取り組んでもらうために健康教室を開いたり健康診断を行っています。



集団健診では、村民の健康状態や成育状況をチェックします。



丹波山温泉「のめこい湯」の駐車場と同じところにある高齢者生活福祉センターです。



デイサービスセンターでは、高齢者の方々がいきいきと過ごせるようにお手伝いしています!



保育所の子どもたちは元気いっぱい。心身ともに健康な子育てを支援しています。

村民の健康管理をサポートする診療所です。医科と歯科があります。



村民の健康管理をサポートする診療所です。医科と歯科があります。



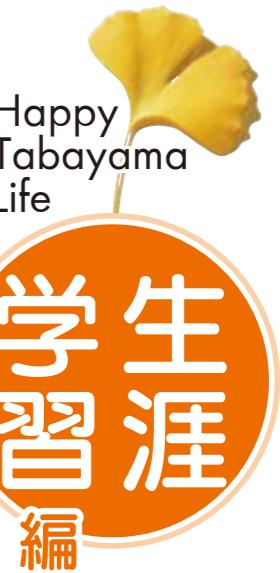
集団健診では、村民の健康状態や成育状況をチェックします。



胸がワクワク 心はウキウキ いつまでも好奇心

いつも、どりでも、だれでも。学ぶということに年齢制限はありません。
丹波山村では、より心豊かに生きようとがんばる皆さんを応援しています。
もちろん、村の未来を背負う子どもたちの教育にも力を入れています。

豊かな自然環境を生かし、伸び伸びとした教育を開拓しています。



生涯編



小学校の校舎は自然の中にあり、子どもたちも元気いっぱいに育っています。



仲間たちと一緒にリフレッシュ! テニスや草野球など、スポーツを楽しむ人がいっぱいです。



小学校の給食風景です。みんなで助けあいながら、楽しく学校生活を送っています!



同級生の数は少ないけれど、だからこそ伸び伸び、そして密度の高い授業を行っています。



ニュースポーツのペタンク。スポーツをとおして健康づくりや交流が広がっています。



地域産業編



丹波山村の気候を生かしたそばづくりも盛んです。一面のそば畑はきれいですよ。



健康食品として注目が集まっているマイタケ。オーナー制度による栽培が行われています。



ワサビは空気も水も澄んだ丹波山村ならではの特産品。真心込めて育てられています。



豊かな山を守る意味でも、林業は大切な役割を担っています。



のめこい湯の駐車場わきにある農林産物直売所。新鮮でオイシイと評判です。

丹波山村では、農林業を中心に、地域のもつ特性を生かした産業が展開されています。そばやワサビ、こんにゃく、じゃがいもなどが生産されているほか、マイタケオーナー制度など、新しい取り組みも行われています。農林産物直売所も、地域の活性化に一役買っています。そのほかにも、工場誘致など、新たな雇用の場創出に取り組んでいます。

自然の恵みを生かしながら



もっと丹波山を よくするぞ！

選挙で選ばれた村議会議員は村民の代表です。村民生活にかかる条例の制定や予算を議決しています。また、役場では、安心して暮らせる村をつくっていくためにさまざまな事業に取り組んでいます。



村民の代表である村議会議員。住民の声を行政に届けるのが仕事です。



こちらが丹波山村役場です。明るく豊かな村づくりのためにがんばっています!



丹波山村のオフィシャルホームページです。暮らしの情報やイベントガイドなどが満載です!



暮らしの相談や住民手続きなど、わからないう�あつたら気軽に相談してください!

Village assembly decides local ordinances and budget related to people's life.

**丹波山村長
岡部政幸**

丹波山村長



1889年(明治22年)村政が施行されて以来今年で123年目を迎えました。

長い歴史の中で、時代が移り変わり村も大きく変化しようとしております。多くの先輩諸氏達が努力を重ね、守り続けて来た本村も、時代とともに人口は少なくなりましたが、村民、行政が一丸となつて明るい元気な村づくりを目指して頑張っております。

森林面積が全体の97%を占める本村は、多摩川源流の四季折々の装いをみせる美しい丹波山村の自然環境を守るために、森林整備や育成保護に東京都水道局、社会貢献活動で訪れる企業の皆様、企業との橋渡しをしていただいている仲人役の公益財団法人オイスカの皆様など、大勢の方のご協力をいただいております。

その中でも、平成22年に完成したクライインガルテンを都市の皆さんに利用していただきにより、耕作放棄地の解消と同時に農業を接点に地域住民との交流も図っています。

観光面では、「たばやま温泉」「めこい湯」「道の駅たばやま」を多くのお客様にご利用いただいております。温泉に関しては、今まで以上の湯量を確保し、お客様が癒されるよう、第二源泉の掘削にも着手いたしました。さらに多くの方々にご利用を頂きたく願っています。

また、伝統文化の継承としまして、本年1月7日伝統あるお松引きが、若者た



平成25年3月

ちの頑張りと、村民の皆様のご協力、村外からこの村を何時も応援してくださる多くの方々のご支援をいただき盛大に開催されました。

7月に行われる「祇園祭」、更に村の最大イベントでもあります「夏祭り丹波」を通して、多くの人たちに丹波山村を知つていただき、誰からも愛される村づくりを目指して頑張ります。

10年ぶりとなります村政要覧の発行となりましたが、村の様子が少しでも

お分かりになれば幸いです。終わりに、今回の要覧に寄稿していただいた皆様をはじめ、丹波山村を愛して、応援してくださる多くの方々の暖かいご意見、と支援に感謝申し上げ発刊の挨拶をいたします。



村の花:ミツバツツジ



村の木:ブナ



村の鳥:コマドリ



【丹波山村・村勢要覧】

発行:山梨県丹波山村

〒409-0300 山梨県北都留郡丹波山村890

TEL. 0428-88-0211 / FAX. 0428-88-0207

編集:丹波山村役場 総務企画課

発行年月:2013年3月

製作:株式会社 少國民社

E-mail info@vill.tabayama.yamanashi.jp
URL <http://www.vill.tabayama.yamanashi.jp/>

The Summary of Tabayama Village
Published by Tabayama Village / March 2013
890 Tabayama Village, Kitatsuru District,
Yamanashi Prefecture

Produced by Shokokuminsha Co.,Ltd.